

# 小児の中耳炎\*治療方法の比較

苫小牧では当クリニックのみ、最先端・最良の治療法です!

	鼓膜切開	レーザー鼓膜開窓術	超短期型 鼓膜チューブ挿入	通常の 鼓膜チューブ挿入
方法	● 極小のメスで鼓膜を切開する。	● レーザーにより直径1~2mmの小さな円形の穴を <b>一瞬(0.2秒)</b> であける。	● レーザーによって開けた穴に特殊な超極小チューブを <b>①3ヶ月②6ヶ月程度</b> 留置する方法。	● 鼓膜に小さなチューブを2年6ヶ月以上留置する。
利点	● 鼓膜切開によって、中耳にたまった膿や滲出液を排出する治療法。	● 1~3週間ほど開窓状態になるため中耳粘膜が治りきるまで膿が排出されやすく、 <b>完治しやすい</b> 。 ● 繰り返し開窓を行っても鼓膜が薄くなったり穴が閉じなくなったりすることはなく <b>きれいに再生する</b> 。	● <b>外来で簡単に</b> (全身麻酔・入院不要)挿入できる。 ● ほとんどの症例が、長期(2年6ヶ月以上)留置をしなくても治る。 ● 短期留置のため、 <b>永久穿孔がととも起こりにくい</b> 。	● 留置期間が長いと、他の治療法では改善が見られない症例に効果がある治療法。 ● <b>チューブを留置しなければ完治が難しい症例もある</b> 。
欠点	● 膿が排出しきる前に閉じてしまい、しばしば何度も切開が必要になる事がある。 ● 繰り返し切開を行うと鼓膜が薄くペラペラになり時には <b>永久的に鼓膜に穴が残ってしまう</b> ことがある。	● 小児の中耳炎に対し、 <b>第一選択にすべきよい</b> 治療法ではあるが、レーザー機器がとても高価であり経済的採算が取れないため残念なことに <b>普及が遅れている</b> 。 ※全国で150ヶ所、北海道内では数ヶ所。苫小牧では当クリニックのみです。 (当クリニックでは年間延べ1100例程のレーザー開窓術を行っております。)	● レーザーの鼓膜開窓術ができない施設では実施できない。 ● 挿入したチューブが耳垂れに押し出されやすく、完治までに何度か入れなおすことがある。	● 小さなお子様のチューブ挿入は <b>全身麻酔</b> になるため一泊入院となる。 ● チューブ挿入中は水遊び・水泳・入浴時など、耳に水が入らない様に注意が必要となる。 (専用の耳栓を使用するなどの対策がある。) ● 100例に3~4例程ではあるが、 <b>永久的に鼓膜に穴が残ってしまう事</b> がある。

## 鼓膜チューブの挿入について

■ レーザー機器がまだまだ普及していないため、レーザー開窓術でも充分完治が望まれる症例に対しても、相当数チューブの挿入が行われています。インフォームドコンセント(説明を十分に受けて納得した上で治療を受ける)という言葉がありますが、本来各医療機関では、チューブ挿入の前以下のような内容について十分に説明をする義務があると考えます。

- \* 永久的に鼓膜に穴が残ってしまう可能性があること。
- \* 他の選択肢として、**レーザー鼓膜開窓術という新しい治療法が確立され好成績を収めていること**。
- \* 留置中は耳に水が入らないようプール・水遊び・入浴など、生活に制限が生じること。
- \* チューブ挿入は他の治療法を試して改善が見られなかった時の最終選択肢であること。